

第 38 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 5 年 2 月 20 日（月）14 時 30 分から 16 時 30 分まで	
開催場所	奈良市役所北棟 5 階 501 会議室	
議題	1 開 会 2 会長挨拶 3 報告事項 (1) 奈良市文化振興事業補助金について (2) 令和 4 年度主な事業の実施状況について 4 議 事 (1) 令和 4 年度事業視察について (2) 第 2 次奈良市文化振興計画への追記について その他	
出席者	委員	中川会長、萩原副会長、上田委員、小野委員、倉橋委員、関根委員、春田委員（オンライン出席）松下委員（オンライン出席）、山下恭委員、山下里加委員 【計 10 人出席】
	事務局	中川次長、（以下文化振興課）森文化振興課長、吉川主査、荒益係長、山本係長、森、吉川、杜
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	・ 今回の会議録の署名は、中川会長と山下里加委員が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

1 開会

2 会長挨拶

3 報告事項

(1) 奈良市文化振興事業補助金について

【事務局より説明】

- ・ 「市民文化活動支援事業」の上限 50 万円の設定分が、総要望額 312 万円で 10 件の応募、うち新規応募が 1 件であった。
- ・ 「都市文化推進支援事業 広域参加型」上限 240 万円の設定分が、総要望額 947 万 4,000 円で 5 件の応募のうち、新規応募はなし。
- ・ 「都市文化推進支援事業 国際発信型」上限 800 万円の設定分は、1 件 400 万円の要望があった。
- ・ 審査の結果、「市民文化活動支援事業」は、交付予定額の総額が 202 万円で、応募の 9 件を候補事業とし、1 件が不採択となった。
- ・ 「都市文化推進支援事業 広域参加型」では、総額が 515 万 4,000 円で、応募の 5 件すべてが交付候補事業となった。
- ・ 「都市文化推進支援事業 国際発信型」、1 件は不採択となった。
- ・ 昨年度と比較すると、応募総案件数は 18 件から 16 件、2 件の減。要望額は 1,807 万円から 1,659 万 4,000 円、147 万 6,000 円の減であった。
- ・ 交付総事業数は、18 件から 14 件と、4 件の減。交付予定総額では 1524 万 8,000 円から 717 万 4,000 円、

807万4,000円の減となった。この理由は、800万円設定分の都市文化推進支援事業、国際発信型の採択がなかったことである。

【委員より質疑・意見】

- ・国際発信型の事業から要望があったのにも関わらず、採択を行わなかった理由は何か。

(事務局・委員より説明)

- ・文化振興計画に沿った事業であるという条件を満たしていなかった。
- ・具体的な計画など、助成金申請に必要な内容が申請書に書かれていなかったため、来年度応募する予定があれば事前に相談をしていただくということでした承を得た。

(2)令和4年度主な事業の実施状況について

【事務局より説明】

- ・第2次奈良市文化振興計画の推進施策1-1に「文化に触れる機会が少ない人に対する鑑賞・活動機会の提供」がある。ふるさと納税の寄付の使い道に「暮らしに芸術に感動を届けるプロジェクト」を令和4年12月に追加した。
- ・ならまちセンターにはカフェ「いにしえ」という店舗を運営しているが、その店舗に併設する形で「ギャラリーいにしえ」がある。
こちらは貸し施設ではなく、ならまちセンターとカフェ運営者により、事業を展開する場所になり、地域の様々な文化施設や団体の皆様と連携協力し、展示や、ミニコンサートなどを行っている。
ならまちセンターでは、多くの観光客が「ならまち」に訪れる事や、図書館もセンター内に併設され多くの市民の方も来られるという特性を活かして、内外への発信拠点として今後もこちらのスペースを有効活用していきたい。
- ・奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」で実施している「青少年と創る演劇 Lite」について。
本事業は平成29年度から継続している中高生とプロの演劇人による演劇クリエイションプログラムである。
通常ならまちセンターのホールで公演をしているが、今年度は「Lite」として、音声館ホールでの成果発表を行う少しコンパクトな企画とした。
構成としては、夏休みに行った全4回のプログラムでは4人の講師によるワークショップ、後期プログラムにて一つの作品を練習し、その成果をお客様の前で発表するという取り組みを行った。
内外の作家やコーディネーターといった専門人材が交流をする場となり、地域人材の活動機会拡充へとつながる内容となった。
- ・市美術館オープンミュージアムプロジェクトでは毎年度、展覧会を美術鑑賞のハードルを下げることを目的のひとつとして、無料で入場いただける形で実施している。今年度は、奈良在住の書家・逢香氏の企画展を実施した。
- ・「東アジア文化創造 NARA クラス」では、2016年の東アジア文化都市でパートナー都市になった中国・寧波市と韓国・済州特別自治道と大学生・高校生の交流企画を継続実施している。以前は渡航を伴うプログラムであったが、令和2年度からはオンラインで継続開催している。
今年度は、過去に本事業に参加した方々に企画ボランティアとして、企画、運営にご協力いただいた。
- ・今年度から始まったアートマネジメント・コーディネート人材育成プログラムでは7月に文化施設や行政職員等を対象に研修を実施した。その後、一般団体・個人向けに全3回の講座を開催した。第1回は補助金関係、第2回は、文化コーディネーターの講習。第3回は、文化事業とICT活用についての講義という内容であった。
- ・文化情報発信の充実という点について、近鉄奈良市内全駅にデジタルサイネージを設置、文化事業の広報

でも積極的に活用しており、一定の効果を得ることができている。また、コロナ禍をきっかけに展覧会の解説や、イベントのアーカイブ配信など、動画配信も継続して進めている。

- ・ 「日本の伝統文化を学ぼう」をはじめ対面型の講座・教室関係もコロナ禍で難しい状況であったが、ほとんど再開ができるようになっており継続して実施している状況。
- ・ 古都祝奈良「コロガル公園テラス」について、こちらは市役所東棟屋上に実際に遊ぶことができる公園型のアート作品を展開し、会期中は9690人の方にご来場いただいた。

【委員から質疑・意見】

- ・ ふるさと納税について、集まった金額はどのくらいだったのか
(事務局回答)

昨年の1月から12月までの文化芸術関係を使途指定いただいた寄附額としては、なら国際映画祭の支援として1,777万円、ジャパンナショナルオーケストラの支援として1,053万7,000円であった。「暮らしに芸術を届けるプロジェクト」では、令和4年12月で184万円の寄付をいただいた。

- ・ 前からお願いしていた条例の存在認知、基本計画に対する計画秩序の確立は大変重要な課題である事を申し上げてきたが、それについて、その一つのルールとしてチラシ等には計画を入れてほしい。これは徹底できているか。

(事務局回答)

少なくとも一つは項目を記載するよう、施設に申し入れている。

4 議事

(1) 令和4年度事業視察について

【事務局より説明】

- ・ 計画推進のため、委員の皆様による事業視察を2月14日に3年ぶりに実施した。当日は、5人に委員の皆様にご協力いただいた。
- ・ 視察事業は、「没後30年記念入江泰吉万葉大和路とみほとけ展」と年間講座事業「高畑デジタル写真クラブ」。
- ・ 「没後30年記念入江泰吉万葉大和路とみほとけ展」は、計画の基本方針としては主に「芸術鑑賞と広く市民が文化に接する機会の拡充に関する事」にあたる。新たな取り組みとしてデジタルネイティブ世代と言われる小中学生の方々も興味を持ってもらうため、今までの展覧会に加え、マナーポートと呼ばれる3Dデータを作成できる仕組みでPCやスマートフォンで空間上の展示が見られるようになっている。
- ・ 年間講座事業「高畑デジタル写真クラブ」は、計画の基本方針としては「市民の文化に対する意識の高揚に関する事」にあたる。前半1時間に講義をし、後半に受講者が撮影した写真の講評を講師が行うもので、毎年定員を超える応募があり、リピーターの方が多く、満足度の高い講座である。

【視察委員より意見】

- ・ 館長が非常に意欲的に取り組んでおられる印象を受けた。特に4月から博物館法が改正されるということで、その趣旨もきちっと踏まえ、地域の多様な主体との連携ということに意欲的に取り組んでおられる。学校との連携もピンポイントであるが進められており、そういった点でも期待したい。写真美術館単独での連携というのはなかなか難しいと思うので、教育委員会の繋ぎで、奈良市の力が必要かと思うので積極にご支援いただけたらと思う。
- ・ 年間講座について、リピーター多いということは、逆にいえば一部の市民ニーズに応えることになって

いないか。今後、デジタルネイティブ世代の子供たち向けの写真講座、SNS で活用できるものも含めて新しい展開も考えて頂けたらと感じる。

- ・ 没後 30 年記念ということで、非常にコンパクトに先生の作品がまとめられており、構成も素晴らしかった。一方で、子どもに見せたいということで、観覧無料としておられたがターゲットの設定が不明確であった。一般の人でも万葉集に興味があれば分からないと思う。構成と演出の仕方について何かしら子ども向きの演出空間や内容にするなど、工夫がないと小中学生にはかなりレベルが高いのではないかと印象であった。
- ・ 芸術鑑賞の機会の拡充等であれば、それなりの効果はあるのではないか。特に入江泰吉氏は、奈良を代表する写真家であり、その顕彰は博物館、美術館の一つの目的になっていると思うので、それは十分に果たしていたと思う。写されたものが、文化の特徴的な風景、或いは文化財であるので、そういうものからなおアピールしていくことが重要。
- ・ できれば、東京都や福岡等、大都市の他館と共催の展覧会を増やすことで、入江氏の業績や、写真を全国に発信することができると思う。写真美術館で展示するだけだと、顕彰というのは、一定のところまでしかいかないが、展覧会を例えば東京でやるということになればかなりのインパクトがある。
- ・ 入江先生のポジフィルムが、復元不可能に近いぐらい劣化してしまっているとのことだが、これが事実だとすれば、写真美術館でありながら、収蔵品のフィルムを劣化させてしまったということは非常に大きな問題である。予算を組んで、早急に対処しなければ、フィルムの価値はなくなってしまうと思う。フィルムが劣化してもデジタル技術で復元できると安易に考えず、今あるフィルムをできるだけ劣化させないようにどうしたらいいか、保存はどうしたらいいか。どうやっていくべきか考えないといけない。
- ・ 奈良市の施設としては、文化財の施設があるがこれは教育委員会所管。それと地域振興の所に所管になっている施設がいくつかあって、あとは観光経済に所管になっているところがある。縦割りでなく施設を持っている課が集まって連絡調整しながら、活用した方が、展覧会が活性化するのではないか。
- ・ 平成 30 年でおそらく入館者が 4 万 2000 人。それが 3 万 5000 人になって、2 万 4000 人になっている。令和 3 年が 1 万 8000 人。これをコロナのせいばかりにせず、展覧会を外部で行い、来場者を増やすべきだ。
- ・ 講座について、SNS 投稿に関連するなど、それぞれの世代に沿うような形が必要である。
- ・ 美術館の広報分野の工夫が必要だと感じる。デジタルサイネージも駅に設置しているので、美術館の催しをそこで紹介するのも一つの方法でもある。
- ・ 時代の先端を行くメタバース空間を創造するという、館長をはじめ職員の野心的で新たな美術館づくりをしようとすることに共感した。
- ・ 市民文化に資するものと評価をし、館長を中心とした新しいメタバース手法の展開に関して広く発信することが望まれている。これを進めることで市民文化のみならず DX 化を先導する美術館として都市文化の発展として大きく貢献するのではないかと期待したい。
- ・ 小学生にとっては難しいのではないか。百人一首のかるたは子どもたちにも決してすたれてはならず、逆に盛んになっているので、例えば百人一首を持ってきてそれと写真をコラボさせるのも一つの方法ではないか。そうすることで若い人たちの関心を持ってもらうきっかけになりやすいのではないかと感じた。
- ・ 高齢の方が多い印象であったので、デジタル写真クラブの応募者が多いことに驚いた。
- ・ 若い人たちが来ないと、どこでも苦しんでいると思うが、高槻市と豊中市の方で文化施設の調査を行った際、若い人たちに来てもらうための、「SNS」は、意外に若い人たちに届いていないことが分かった。若い人たちのネットワークに入っていないことには効果がなく、かえって 50 代以上の人たちが施設

の SNS とか Facebook、ホームページを見て、来ている。デジタルもいいが若い世代の人たちに届くような工夫が必要。まずは、調査や若い人たちの動向についてエビデンスをとることが必要ではないか。分析までするというので、豊中の例で有効だったのは小中学校へのチラシの配布。高槻の場合は、大学生が直接中学校等に訪問し、勧誘する。自分たちに向けてメッセージされている実感がないと来ない。

- ・ 平日開催だと働いている世代がなかなか難しいので土日開催にするだけで新しい層が開拓できるのではないかと感じる。
- ・ メタバース活用は、間口が広くて良いと思うが、やはり、写真美術館に来てもらって来館者を増やすことが最終目的になると思うので、例えば何回かの取り組みの中のうち講座は、メタバースで行い、発表会や技術的な講習だけリアルで行うというように、リアルとメタバースもしくはオンラインを掛け合わせた取り組みをすれば若い世代の方も参加しやすいと感じる。
- ・ 幼稚園、認定こども園、保育所、障がい者施設、小学校、中学校へのアート派遣事業に踏み込んでも良いのではないか。大きな波及効果をもたらすことは火を見るよりも明らかである。子どもたちにアウトリーチとインリーチとして、写真美術館に卒業するまでに一回は来てもらう、というような具体的な目標を立てていくなど、具体的なリアクションを起こしていかないと、動かないと思う。今までのような既成のフォーム、組織的な流れでやる限り、入江氏や杉岡氏の作品も本当に全部宝の持ち腐れになっていくと思う。大学との連携より、幼稚園・小学校・中学校と連携した方が良い。そうすると子どもは必ず記憶する。我が町にこのような素晴らしい人がいたのだと誇りに思う。その方が効果は高い。

(2) 第2次奈良市文化振興計画への追記について

【事務局より説明】

- ・ 奈良市では、様々な団体等が行う事業に対して、事業経費や、広報面での支援を行っているところで、その支援の一つとして奈良市魅力発信パートナーという制度がある。こちらについての言及が、計画の中で明確にされていないというご指摘を受け、今回資料4のとおり追記する案を策定した。
- ・ 文化分野においては、なら国際映画祭と2021年にショパン国際コンクールで2位になられたピアニストの反田氏が代表を務めるジャパンナショナルオーケストラの2つである。これらのパートナーの主な支援としては、個人版ふるさと納税及び企業版ふるさと納税を原資とした事業費の支援や、広報の連携協力等がある。

【委員より質疑・意見】

- ・ 奈良市魅力発信パートナーについては今まで載っていなかった。こういうものについては、思いつきでやらずにきちっと計画の中に位置づけること。追認も含めて、一つの秩序を収めてもらいたい。パートナーとして、なら国際映画祭とジャパンナショナルオーケストラを認めていると、ここでは承認しておくということでもいいか。
- ・ 本来は、市の内部規律でしかない要綱等で、市民に対する権利義務に影響するような制度を運用するのは望ましくない。お金や地位を与えたりするものは、少なくとも条例でやらねばならない。今回は、それに至るまでの途中経過として姿勢を示されたうえで、応援していきたいと諮問を受けたので、賛成の意を示した。

以上、議題終了